様式２

輸出事業計画

※申請者名：台湾輸出拡大協議会、品目：長芋・キャベツ・ブロッコリー・かんしょ

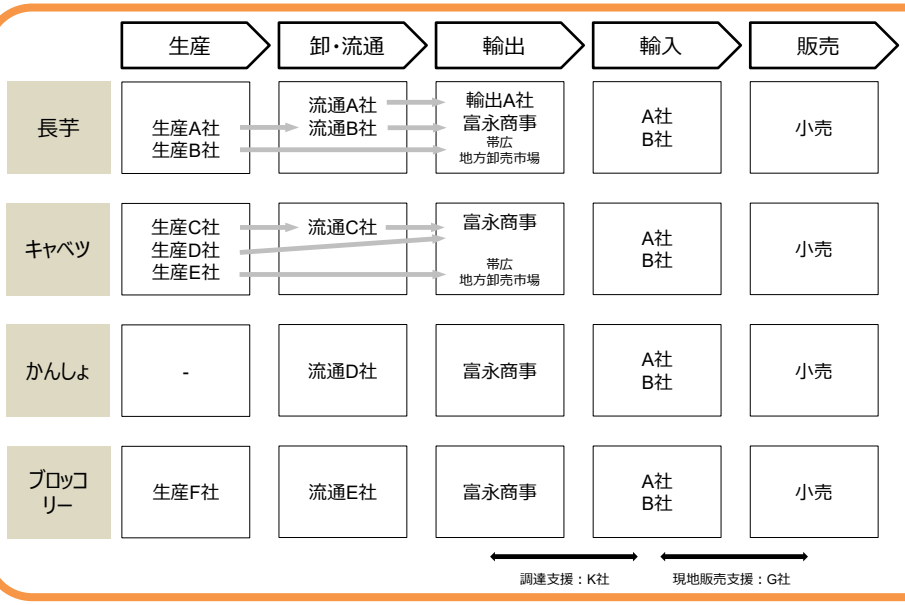
１．輸出における現状と課題

- 台湾向けの日本産果物は春節ギフト需要等を背景に高単価帯でも浸透し、新規市場は限定的で競争が激化している。
- 一方、日本産野菜は輸出が伸び悩み、台湾小売での定番導入品目は長芋・かんしょを中心とした5品目前後にとどまっており、日系小売への少量供給が主流である。
  - ➢ 野菜は果物より低単価・低粗利である一方、品質管理や物流管理は同等に厳しく、台湾輸入業者が本腰を入れにくい構造が背景にあることが要因である。
- 台湾は天候不順や台風で生産が不安定となり、特に夏季（5～10月）は輸入依存が高いため、東南アジア、中国、アメリカ等から輸入しているが、高品質である日本産野菜に対する期待は強い。
- 日本は他国に比べ地理的に優位であり、日本産青果物に対する台湾からの評価は非常に高いため、台湾のニーズに合う生産体制の構築(残留農薬への対応、現地の要望にあった規格での生産)を行い、産地から現地販売先が一気通貫で連携して課題の解決にあたる事で、台湾消費者の日常使い向けに、大ロット・継続的に輸出できる可能性は非常に高い。

２．輸出事業計画の取組内容

- 本事業は、台湾市場のニーズを起点として、生産・流通・販売を一体的に見直すことで、日本産野菜を台湾の日常消費向けに大ロットかつ継続的に輸出可能なモデルを構築することを目的とする。
- 事業の推進に当たっては、富永商事株式会社を中心に、品目ごとの輸出向け生産および出荷ロットの確保を図るとともに、複数産地の連携による安定供給体制を構築する。
- 販路開拓およびプロモーションについては、台湾現地企業と連携し、現地小売・コンビニ市場への展開を図るとともに、台湾輸入商社とも協働し、規格外品やB級品については現地でのカット加工を通じた等級別流通ルートを整備する。
- 生産面では、台湾市場で需要が出始めたLサイズの長芋に対応するため、植付ピッチを従来の23cmから18cmへ変更する生産体系の転換を実証し、安定的な規格生産の確立を目指す。
- 流通面では、キャベツおよびブロッコリーについて、台湾の取引慣行に即した重量管理による適正梱包を導入し、枝葉カット等の現地要望にも対応する。さらに、ブロッコリーについては、通気口付き氷詰めケースや鮮度保持袋の活用による鮮度保持実証を行い、輸送中の品質劣化を抑制する。
- 加えて、小売・コンビニでの店頭販促の実施、長芋とかんしょの混載輸送、空輸および輸出港比較等を通じて、物流コストの削減と通年安定供給体制の確立を図る。

３．輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



P：K社を中心に、台湾市場・バイヤーニーズと日本側の生産状況を基に調達計画を立てる。日本側の生産状況に応じて、商流の調整等も行う。

D：GFP大規模産地事業にて、物流費・サンプル費・現地販促費用を活用し、実証を行う。

C：生産状況の確認・フィードバックについては富永商事・帯広地方卸売市場にて、現地到着時に荷物の確認や販促結果については、K社・A社中心に対応を行う。

A：上記のフィードバック等を通じて、次年度以降の調達計画のブラッシュアップ、消費者ニーズに合った規格での販売・販促等に反映する。

様式２

輸出事業計画

※申請者名：台湾輸出拡大協議会、品目：長芋・キャベツ・ブロッコリー・かんしょ

４．輸出目標額

長芋

		現状 （令和6年度）	目標年 （令和9年度）
北海道	輸出額（千円）	29,400	40,556
	輸出量（kg）	52,500	72,421
	輸出先国	台湾	台湾
青森	輸出額（千円）	0	26,388
	輸出量（kg）	0	47,121
	輸出先国	台湾	台湾

キャベツ

		現状 （令和6年度）	目標年 （令和9年度）
群馬	輸出額（千円）	972	4,262
	輸出量（kg）	4,320	18,940
	輸出先国	台湾	台湾

かんしょ

		現状 （令和6年度）	目標年 （令和9年度）
宮崎	輸出額（千円）	0	1,668
	輸出量（kg）	0	3,000
	輸出先国	台湾	台湾

ブロッコリー

		現状 （令和年度）	目標年 （令和9年度）
北海道	輸出額（千円）	1,050	3,024
	輸出量（kg）	1,500	4,320
	輸出先国	台湾	台湾